

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科		
科目名称	幼児理解					授業形態	講義		
科目コード	750039	単位数	2単位	配当学年	3年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	藤本 朋美								
授業概要	<p>本授業の目的は、保育者として、子どもの内面を理解しながら援助ができる実践的力量を培うことです。保育者として子どもの成長を支えるためには、子どもを理解することが必要です。子ども理解は日々の子どものかかわりの中で行います。子どもの言動の背景に何があるのかを考え、一人一人の子どもについて深く考察することを通して保育者は保育を計画します。そのために授業では、一般的な子どもの発達過程について学んだあと、事例を基に子どもの内面の理解を図ります。また、その際の保育者としての援助の方法について同時に考えていきます。</p>								
関連する科目	<p>「保育内容総論」を事前に受講しておくことが望ましい。 履修後は、「教育実習（幼稚園）」を履修することが望ましい。</p>								
授業の進め方 と方法	<p>毎回の授業にて、演習形式の授業を展開します。授業の構成は以下の通りです。 授業の前半では事例に沿って各自でこれまでの知識や経験から幼児理解を図ります。その後、グループディスカッションを通して、個人の考えを深めていきます。最後に、提示した事例の一般的な幼児理解の方法について講義を行い、自らの考えをまとめます。</p>								
授業計画 【第1回】	<p>幼児理解の意義 保育者として子どもを理解することの意義について学びます。</p>								
授業計画 【第2回】	<p>乳幼児の発達理解 乳幼児を理解するために必要な乳幼児の一般的な発達について学びます。</p>								
授業計画 【第3回】	<p>幼児理解と援助に必要なこと 子どもを理解するために必要な視点と援助の視点について学びます。</p>								
授業計画 【第4回】	<p>幼児理解と援助の手がかり～保護者との連携から～ 子どもを理解するために欠かせない保護者との連携について学びます。</p>								
授業計画 【第5回】	<p>遊びと幼児理解 子どもの成長に欠かせない遊びについて理解を深めます。</p>								
授業計画 【第6回】	<p>実践記録と幼児理解 子ども理解に欠かせない実践記録について学びます。</p>								
授業計画 【第7回】	<p>子ども同士のトラブルにおける幼児理解と援助 発達に応じたトラブルの対応方法について学びます。</p>								
授業計画 【第8回】	<p>貸し借りで見る幼児理解 貸し借りの様子を捉えた事例から、保育環境の理解について学びます。</p>								
授業計画 【第9回】	<p>仲間作りから見る幼児理解 他者とのかかわりの事例から、幼児期の仲間作りについて学びます。</p>								
授業計画 【第10回】	<p>葛藤の経験からみる幼児理解 幼児期の葛藤体験の必要性について学びます。</p>								
授業計画 【第11回】	<p>配慮が必要な幼児への理解 保育者が「気になる子ども」と感じている子どもについて理解し、保育者としての援助方法について学びます。</p>								

授業計画 【第12回】	幼児期の教育と小学校教育の接続-指針・要領と学習指導要領の関連 幼児期の学びと小学校教育の接続の重要性について学びます。
授業計画 【第13回】	幼児期の教育と小学校教育の接続-保育者・小学校教諭として考える 保育者および小学校教諭の立場から幼児期の教育と小学校教育の接続について考えます。
授業計画 【第14回】	実習事例から考察する幼児理解と援助 観察実習時のエピソード記録を活用し、子どもの理解について再度、考察します。
授業計画 【第15回】	まとめ これまでの学びから、幼児理解の必要性について振り返り、学びの定着を図ります。
授業の到達目標	1. 乳幼児期の子どもの発達を理解する 2. 保育実践場面での子どもの様々な言動や表情の背景にある子どもの思いをつかむための視点と方法を理解する 3. 保育実践記録を子ども理解の視点から分析する力を養う 4. 子ども理解の深まりと子どもの発達を促す保育指導・援助の豊かさとの相互関係を理解する
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外の学修 【予習】	授業の中で次回の内容に関する説明を行います。その内容に関する事例を各自で探すことを予習とします。
授業時間外の学修 【復習】	授業後は、授業内で扱った事例に関して再度、各自で検討し、幼児理解を深めることを復習とします。
課題に対する フィードバック	授業の感想は返却します。 課題は評価後に返却します。 最終試験は試験後に解説を行います。
評価方法・基準	以下の項目に基づいて評価します。 1) 定期試験 50点 2) 学習態度・意欲 20点 3) 課題提出 30点
テキスト	必要に応じて資料を配布します。
参考書	『「気になる子」と言わない保育』（1,800+税）、赤木和重他編著、ひとなる書房、2013
備考	